

ICSAF 2021
PROGRAM

INTERCOLLEGE

SONICARTS

インターカレッジ
ソニックアーツ・フェスティバル
2021

プログラム

FESTIVAL 2021

2022.3.5 sat — 3.6 sun

INTERCOLLEGE SONIC ARTS FESTIVAL 2021

ICSAF 2021

2022.3.5 sat—3.6 sun

インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル 2021

オンライン開催 | 視聴無料

contents / 目次

ICSAF開催によせて ————— 02

ごあいさつ ————— 03

< イベントスケジュール > ※都合により変更になる場合がございます

3月5日 [土]

1st day

10:00 - 12:30 JSSA先端芸術音楽創作学会研究会セッション1 ————— 04

13:30 - 14:00 開会式・基調講演 中村滋延 (九州大学名誉教授・相愛大学大学院客員教授) 05

14:30 - 15:30 ICSAF2021 学生フリートーク1 ————— 06

16:00 - 18:00 ICSAF2021 コンサート1 ————— 06

10:00 - 18:00 オンデマンド作品上演 ————— 15
(電子音響音楽、ミクスト音楽、即興演奏、インスタレーション)

3月6日 [日]

2nd day

10:00 - 12:30 JSSA先端芸術音楽創作学会研究会セッション2 ————— 10

14:00 - 15:00 ICSAF2021 学生フリートーク2 ————— 10

15:30 - 17:30 ICSAF2021 コンサート2 ————— 11

終日 オンデマンド作品上演 ————— 15
(電子音響音楽、ミクスト音楽、即興演奏、インスタレーション)

※月末まで公開予定

< ご視聴について >

下記URL又はQRコードから自由にご視聴ください。

【ICSAF公式サイト】 <https://ic.jssa.info/>

ICSAF公式サイト >>



■ イベント最新情報も上記「ICSAF公式サイト」からご確認ください。

ICSAF 開催によせて

ICSAF(インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル)は、JSSA(先端芸術音楽創作学会)インターカレッジ運営委員会が主催する、学生作品中心の作品展です。音楽やサウンドの学習に励む大学生や大学院生らが、新しい技術環境を利用して、これまでに見たことも聞いたこともないようなモノやコトを生み出し、多様な人々に見聞きしていただく、その貴重な経験を得るのが ICSAF です。

ICSAF ではコンサート、インスタレーション、シアター、研究プレゼンテーションなど色々なタイプの発表が行われます。

2020 年と 2021 年はコロナ感染症の影響で世の中が大きく変わってしまい、学習や生活の形も、かつては予想もしなかったような状態になっています。

幸いなことに遠隔コミュニケーションの環境はこの2年で一気に進展し、遠い地域との会話や会議もストレスなく行うことができるようになりました。音楽パフォーマンスに十分貢献できるほどに遅延の無い遠隔通信はまだ実現されていないようですが、逆に、遅延を音楽的時間の表現材料として利用している人たちもいます。不便なことを、逆にポジティブに利用してしまう柔軟発想が、音の創造世界にも益をもたらしているということです。

今回の ICSAF でも出品者の方々のみずみずしい感性と技術を使いこなす柔軟な思考に触れられることを楽しみにしています。

ICSAF2021 の開催にあたり、担当された実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

JSSA インターカレッジ運営委員長 水野みか子

ごあいさつ

インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル2021にご参加の皆様、また開催にご尽力いただいたすべての皆様、本日ここ大分県立芸術文化短期大学をメイン会場に開催されることを心から歓迎し、お祝い申し上げます。今年度のICSAFのホスト校を本学が務めさせていただくこととなり、大変うれしく思っております。

本フェスティバルは、テクノロジーと音楽に関する研究や創作を教育課程に取り入れている全国の大学等が参加し、学生たちの交流の場として、また日々の成果を発表する場としての歴史を積み重ねてきたイベントでございます。電子工学の技術を応用して作曲される電子音楽は、若者を中心になじみある音楽分野となり、即興演奏やインスタレーションなど幅広い広がり可能性を感じます。私は、ロシアの著名な音楽家ゲルギエフと交友関係を結び、その縁で世界各地の音楽家との交流を続けており、音楽の持つ癒しの効果と限りない可能性を感じているところです。

今年度も感染症に配慮しながらの1年となりました。制約の多い時代だからこそ、本物の音楽を世界中に広げることで、多くの方が芸術の素晴らしさを再認識して欲しいと思います。

本学は音楽科と専攻科音楽専攻を有する全国的にも珍しい公立短期大学です。「1回の舞台経験は、100回の練習に勝る」をモットーに200名の学生が音楽を学んでいます。本日の経験が学生にとって有意義なものとなることを願っております。

末尾にはなりましたが、本日までご参加の皆様、ぜひ2日間に及ぶイベントを大いに楽しみ、音楽作品や研究について新たな側面に触れていただければと思います。そうして、ICSAFのさらなる発展と参加大学の交流の輪がより大きくなることを願っております。

令和4年 3月 5日
大分県立芸術文化短期大学
学長 小手川大助



【プロフィール】

小手川 大助 Kotegawa Daisuke
大分県立芸術文化短期大学理事長兼学長
大分県臼杵市出身、東京大学法学部卒
財務省内閣官房審議官、国際通貨基金日本政府代表理事等を歴任

3月5日 [土] 10:30 -

●10:30 - 12:00

JSSA先端芸術音楽創作学会 研究会セッション 1

10:30-12:00

JSSA先端芸術音楽創作学会 研究会セッション 1

1. “変遷”の制作に用いた技術について

小林一憲、小坂直敏(東京電機大)

2. 姿勢推定を用いたサウンドインタラクションの検討

公文太一、小坂直敏(東京電機大)

3. マルチスピーカー音響作品を通じた立体的音脈表現の試み

山之下朝陽、伊藤彰教、三上浩司(東京工科大)

4. 非接触型電子楽器の開発を通じたサウンドデザイン

川合雄佑、伊藤彰教(東京工科大)

3月5日 [土] 13:30 -

●13:30 - 14:00

基調講演 中村滋延(作曲家・九州大学名誉教授)
「音・音楽がつくる映像芸術」

13:30-14:00

基調講演 中村滋延(作曲家・九州大学名誉教授)
「音・音楽がつくる映像芸術」

私は作曲家として様々なジャンルやスタイルの作品をつくってきた。その中で他の作曲家の方々と異なるのは視覚要素を構成に取り入れた作品を積極的につくってきたことだろう。視覚要素は制作の初期段階から聴覚要素と一体化して扱っている。これらの作品は手がけてきた順に①シアターピース → ②インタラクティブ・コンピュータ音楽 → ③映像音響詩(映像芸術)にだまかに分類される。この変遷は私にとっては進化であったが、アート&テクノロジーの観点からは退化と受け取られることもある。

本講演ではこの変遷について語る。同時にそれは変遷のきっかけを述べることになり、私が作品制作に何を求めてきたのか、どのような世界を築こうとしてきたのか、そうしたことを自ずと吐露することになる。

中村滋延 (NAKAMURA, Shigenobu)

作曲家・九州大学名誉教授。1950年大阪生まれ、1969年愛知県立芸術大学音楽学部入学、1977年愛知県立芸術大学大学院修了、石井欽と中田直広に師事。在学中の1974～76年にドイツ政府給費留学生(DAAD)として国立ミュンヘン音楽大学で、W.キルマイヤーとD.アッカーに師事。日本音楽コンクール作曲部門(1971, 73年)、国際ガウデアムス作曲コンクール(76, 77年)、AVRO奨励賞(オランダ放送局連盟賞77年)、日本交響楽振興財団作曲賞(78年)、日本音楽集団作曲賞(78年)、Music Today作曲コンクール(83年)、国立劇場舞台芸術作品賞(98年)、ICMC国際コンピュータ音楽会議作品部門(91, 95, 96, 97, 2001, 03年)、国際メディアアート賞(95, 96年)など入選入賞多数。交響曲5曲を含むクラシック系列の現代音楽を100曲以上作曲。音楽系メディアアート及び映像音響詩という表現領域を創成。1997～1998年ZKM芸術とメディア工学のためのセンター(ドイツカールスルーエ)滞任芸術家、2001～2016年九州大学大学院芸術工学院教授としてメディアアートや映像アートの研究・制作・教育活動に従事。2010年福岡市文化賞。『現代音楽×メディアアート』(九州大学出版会、2008、単著)、『映像表現の創造的特性と可能性』(角川書店、1998、共著)『メディアアートの世界』(国書刊行会、2008、共著)など、音楽や映画・映像アートに関する著述・論文・評論等の執筆も多い。

オフィシャルWEBサイト <http://nkmr1950.sakura.ne.jp/wp/>



3月5日 [土] 14:30 - / 16:00 -

●14:30 - 15:30

ICSAF2021 学生フリートーク 1

●16:00 - 18:00

ICSAF2021 ICSAF2021 コンサート 1

14:30-15:30

ICSAF2021 学生フリートーク 1

司会:城一裕(九州大学・九州大学大学院)

16:00-18:00

ICSAF2021 コンサート 1

1. continuo (電子音楽音響作品)

適度に低い音域の落ち着いた音色を持ち、抱えるようにして演奏し、通奏低音のように縁の下の力持ちを担当することもあればオイシイ旋律を弾かせてもらえることもある、開放弦の音はC-G-D-A音の大きめ弦楽器、そう。チェロです。好きなものを音楽にしようと思い、この楽器が出す様々な音を素材にして制作しました。旋律が無い分、様々な音を拾って聴いていただければと思います。

岡田実夕 Miyu Okada 大分県立芸術文化短期大学専攻科音楽専攻作曲コース

大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース作曲分野を卒業。6歳よりピアノ、12歳よりクラリネット、19歳よりチェロを始める。第49回大分県音楽コンクール作曲部門A 大学・一般の部にて第1位を受賞。2019年4月より作曲を松宮圭太氏に師事。現在、同短期大学専攻科音楽専攻作曲コース1年次在学中。

2. CDJ Music Concrete (電子音楽音響作品)

本作はデジタルオーディオ、Max/MSP、CDプレーヤーを材料に、伝統的な球体音楽ライブを実験する音楽です。テープミュージック、具体音楽は具体化された音を素材としてテープを切って貼り付ける作業で、この作業は構成に含まれています。物理的時間の変化(物理的ターンテーブル回転、テープモーター回転)テープ音楽の作曲は時間を歪曲する作業です。時間が0だと音が存在できないので、デジタルではNoiseが発生します。主に聴くMP3音源をランダムに選んで、Max/MSPが自由に時間を制御できるようパッチを作りました。この編集作業をそのままMax/MSPに録音しました。このようにして得られた特定データは、それ自体でテープ音楽といえますが、ライブのためにCDを作り、CDプレーヤーでライブGlitchを作ります。音楽メディアがテープからCDに移るにつれてはさみ、カッティングテープの種類と個数が増えました。思ったよりたくさんの仕事をすることができました。そして、MP3音源をそのまま使うのは面白くないです。今画面を見ているように、私たち皆がコンピューターに住んでいるからです。

イ・スンギョ Yi Seunggyu 九州大学大学院修士課程

1985年韓国生まれ、日本を拠点として活動している電子音楽家。ソウル芸術大学卒業。専門は作曲、電子音楽、音響設計。九州大学芸術工学府在学中。アナログモジュラーシンセサイザーとコンピューターから、騒音に接近し、音楽的構成を解体することで、騒音が音楽的な経験なのか、それとも音響的な経験なのか、そして、そこからどのような経験が聞けるのかを探求している。「2020 KFoM (Kansai Festival of Modular)」,「2021 GIGAMODULAR東京」,「GIGANOISE九州」などに出演。

3. 1/2の聴常現象 - クオリアの聴跡 - (ミクスト音楽作品)

私は難聴だ。普段は補聴器をつけている。難聴というものは音の強さや可聴域が悪化しているのみだととらわれがちであるが、問題は単純ではない。私の場合さらに音に歪みやくぐりがある。メガネで視力が矯正されるように、補聴器によってそれらの問題は多少改善される。このように補聴器の着脱により1つの音に対し、2つの聴こえが私には存在するのだ。連作「1/2の聴常現象」ではその音の差異に焦点を置いている。

今作では音の反響をテーマに電子音響と器楽合奏を用いて作曲した。曲中では、①録音された環境音。②それ私の聴覚を模したフィルターを通した音。③それらを組み合わせた音の3種類の電子音響が使われている。器楽合奏は、電子音響を受けて次第に変化していく。

本作はオンラインでの発表にあたり、場所を隔てた個人が1人で聴くことを想定しており、イヤホンで聴くことで初めて成立する作品となっている。

杉野智彦 Tomohiko Sugino 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻作曲コース

愛知県立芸術大学作曲専攻作曲コース在籍

優秀学生による音楽学部第54回定期演奏会、第53回卒業演奏会にて作曲作品を発表

<https://tomohikosugino.work/>

指揮:杉野智彦

フルート:井澤莉子

オーボエ:国崎祐未

クラリネット/バスクラリネット:土井春華

パーカッションI:狩野将輝

パーカッションII:北条拓夢

ヴァイオリンI:篠原智香

ヴァイオリンII:稲垣英里奈

ヴィオラ:大木美稀子

チェロ:窪田翔椰

4. Creepration (電子音響音楽作品)

タイトルのCreeprationは、creep(忍び寄る, 不気味)+collaboration(協働)を合わせた造語である。暗く不安な空間を表現するため、作家欄に列挙されているメンバーから供出した音響素材を用いて、立体感や楽曲の展開を構築した。展開が進むにつれ音の厚みやテンポ感に変化を出し、曲にストーリー性を持たせている。(吉田絵梨奈)

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系作曲・音楽文化研究室メンバー

吉田絵梨奈 Erina Yoshida(mix), 上野知也 Tomoya Ueno, 遠藤慎之輔 Shinnosuke Endo, 栗原歩武 Ayumu Kurihara, 関口野亜 Noa Sekiguchi, 原悠真 Yuma Hara, 真中大徳 Daitoku Manaka, 五十嵐万裕 Mayu Ikarashi, 賀川友理 Yuri Kagawa, 川崎萌奈美 Monami Kawasaki 椎橋圭悟 Keigo Shiibashi, 中村光希 Mitsuki Nakamura, 鈴木隆潤 Takahiro Suzuki, 橋本亮吾 Ryogo Hashimoto, 新井聡真 Soma Arai, 本多慎吾 Shingo Honda, 土井理史 Satoshi Doi

5. 砂像 (電子音響音楽作品)

この作品は、作家欄に列挙されているメンバーにより供出した音響素材を、緻密な改易や継ぎ接ぎを繰り返し、さらに立体感を意識しつつ構築することで、アッサンブラージュ的かつ独創的な形となったものである。またタイトルにもある通り、砂像のような刹那的な儚さや美しさを、目まぐるしく変化する展開や水音などで表現している。(菅原聖秀)

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系, 作曲・音楽文化研究室メンバー

菅原聖秀 Seishu Sugawara (mix), 蛭原崇弘 Takahiro Ebihara, 小室佳太郎 Keitaro Komuro, 長谷川隼大 Toshihiro Hasegawa, 安田 翔 Sho Yasuda, 長谷川権 Chikara Hasegawa, 柿崎瑞貴 Mizuki Kakizaki, 鈴木怜奈 Reina Suzuki, 川崎拓海 Takumi Kawasaki, 塩田千紘 Chihiro Enda, 笹嶋ひより Hiyori Sasajima, 鈴木敦也 Atsuya Suzuki, 小林玄斎 Gensai Kobayashi, 間下拓海 Takukmi Mashita, 高根沢直柔 Naonari Takanezawa, 松本実樹 Miki Matsumoto, 吉田優理奈 Yurina Yoshida

6. サウンドデザイン・オムニバス（電子音響音楽作品）

サウンドデザイン演習の授業を履修する7名の学生が制作したオムニバス作品。

以下、氏名と各タイトル(括弧内)、一言解説。

伊藤晴菜:「生活的小品・AM8:30」身の回りの生活音を録音し、休日の朝の風景をイメージして制作。

王地:「睡覺」睡眠を誘う音楽。

上杉将史:「Cyberspace」パソコンから電子の世界に引き込まれるミニストーリー。

甲斐涼南:「逃げ道」追い詰めながらも逃げ道を探す人の心の変化。

孫旭廷:「Ambient的試作曲」グリッチ、リミッター、ウェーブシェイプを使い、無限ループのBGMを構想。

駒村深智・福澤舞:「怪誕不経」「トラウマ的な音楽」を目指し、とुरりゃんせや和風的な音を多く使った。

昭和音楽大学音楽芸術表現学科作曲・音楽デザインコース、

昭和音楽大学短期大学部音楽科デジタルミュージックコース

伊藤晴菜 Haruna Ito, 甲斐涼南 Suzuna Kai, 上杉将史 Masafumi Uesugi, 王地 Wang Di, 駒村深智 Sachi Komamura, 孫旭廷 Sun YanTing, 福澤舞 Fukuzawa Mai

7. 町中華で踊ろうよ（電子音響音楽作品）

中華料理! —この響きを愛おしく感じるの私だけではないでしょう。お腹が空いて空いて仕方がないある日曜日の昼下がり、町の中華料理店……「町中華」に足を踏み入れたあなた。壁のお品書き、謎のテレビ、ベタついたテーブル、ふくよかな店主、見渡す限りがワンダーランド。中国四千年の歴史を日本の大衆向けにアレンジした味わい深い空間は、いつも私たちの心を踊らせてくれます。さあ、今夜はお気に入りのあの料理とダンス!

佐々木優美 Yumi Sasaki 大分県立芸術文化短期大学専攻科音楽専攻

山口県出身。山口大学人文学部人文社会学科卒業。現在、大分県立芸術文化短期大学専攻科音楽専攻声楽コースに在籍。同短期大学定期演奏会にてF.Poulenc《Gloria》、L.v.Beethoven《Missa solemnis》等のソリストを務める。第23回さくらびあ新人コンクールさくらびあ大賞(第1位)受賞。第49回大分県音楽コンクール声楽部門大学の部第1位。声楽を末廣正巳、林満理子の各氏に師事。

8. 一喜一憂、大学生（電子音響音楽作品）

この作品は、課題の締め切りやテスト勉強に追われながら、一喜一憂する大学生の心情をテーマとしています。大学生二人による掛け合いに加えて、これまで学習してきた録音技術やエフェクト、シンセサイザーなどを積極的に取り入れることで、視聴者を飽きさせない、おもしろい音作りを試みました。課題の締め切りが延長されたことによる安堵や、テスト目の焦りなど、日常生活における大学生のメンタルの不安定な様子をぜひ楽しんでみて下さい。

南凌介 Ryosuke Minami 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学 人間科学部情報メディア学科3回生 音楽・サウンドゼミ所属。普段、ポカロ曲や歌ってみた動画を好んで視聴しています。最近、テンポ感や聞き心地の良さからラップに関心を持ち始めました。MIXの知識や技術は未熟ですが、今作の「一喜一憂、大学生」を制作する上でも、テンポ感の良さを重視しています。

宮脇雅也 Masaya Miyawaki 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学 人間科学部情報メディア学科3回生 音楽・サウンドゼミ所属。普段はEDMやアニソンを聴いています。授業で培った技術や知識を生かして少しでもより良い音楽制作をめざしました。

9. Control（映像付き音響作品）

機械学習を用いて、人間の動きをリアルタイムにコンピュータで解析しその情報をもとに音響を生成する。その音響や人間の動きの情報をもとにグラフィックスを生成する映像付き音響作品及びパフォーマンス。一般的な作曲手法や、アルゴリズムコンポジションを交えて音楽が生成される。その音楽を演奏するシンセサイザーに対して、身体姿勢のパラメータに基づいてモジュレーションを加えている。音楽用ではない

機械学習モデルを利用した音楽制作を通じて人間と人工知能による創造的な関係を探る。姿勢推定にRunwayML、音響合成、作曲にMax8、グラフィックスやデータTouchDesignerを用いてシステムの制作を行った。

公文太一 Taichi Kumon 東京電機大学未来科学部情報メディア学科

2000年栃木生まれ。2019年、東京電機大学未来科学部情報メディア学科入学。現在は、同学科音メディア表現研究室で小坂直敏に師事。創作においての人間とコンピュータの関係性に注目し、舞踊の動きなど人間によってもたらされる情報と音響合成のインタラクションについての研究を行っている。また、それらに人間や音とインタラクションするコンピュータグラフィックスを加えた作品制作を行っている。

10. NON-CONTACT (即興演奏)

Arduinoを用いて開発した新しいタイプのレーザーハーブとProphet-6、MS-20を用いた約7分間の即興演奏。開発したレーザーハーブは従来のものとは形やインタラクションなどを変えることで新たな演奏表現の開拓を目指した。レーザーハーブでProphet-6の音程と複数のパラメーターを制御し、MS-20のリズムと組み合わせて演奏を行なった作品である。

川合雄佑 Yusuke Kawai 東京工科大学メディア学部メディア学科

1999年神奈川生まれ。東京工科大学メディア学部メディア学科所属。中学生時代にYellow Magic Orchestraの音楽に会い、シンセサイザーによる音作りを始める。楽器演奏のほか、Arduinoを用いた楽器の制作も行う。

3月6日 [日] 10:30 - / 14:30 -

●10:30 - 12:00

JSSA先端芸術音楽創作学会 研究会セッション 2

●14:30 - 15:30

ICSAF2021 学生フリートーク 2

10:30-12:00

JSSA先端芸術音楽創作学会 研究会セッション 2

1. 尺八、北簫、南簫、短簫におけるオクターブの伸縮に関する研究

MinKyung KWON、中島 宏(尚美学園音楽大学)

2. 電子音響と映像を用いた音楽作品の再解釈について～武満徹『Corona』(1972)を事例に

About reinterpreting musical composition using electronics and video — “Corona” (1962) by Toru Takemitsu as an example

林賢黙、三輪真弘(IAMAS)

3. 他者と共に行う新しい創作形態の試み ～《変容の対象》からの展開～

福島諭、三輪真弘(IAMAS)

14:30-15:30

ICSAF2021 学生フリートーク 2

司会:清水慶彦(大分県立芸術文化短期大学)

3月6日 [日] 16:00 -

●16:00 - 18:00

ICSAF2021 コンサート 2

16:00-18:00

ICSAF2021 コンサート 2

1. 層楽 (電子音響音楽作品)

定位特性を考慮した電子音による7.1.4chマルチスピーカー再生のための3Dオーディオ作品。立体音響空間に幾つものpercussiveな音が充満することにより、多彩なリズムパターンが空間的、心象的に重層を成し、構成する1音1音の変幻によってその形を変えていく。リズムフレーズによる三次元音響空間の醸成により立体的音脈表現の探求を試みた。

山之下朝陽 Asahi Yamanoshita 東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科

1998年生まれ。東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科メディアサイエンス専攻在籍。マルチスピーカーやAmbisonicsを用いた3Dオーディオ音響作品のサウンドデザイン研究に従事。

2. Shadow for saxophone and DRONE (ライブエレクトロニクス作品)

この作品はアルトサクソフォンとドローンのためのLive Electronics作品である。アルトサクソフォンの音をリアルタイムに制御し、音の変化に合わせて、ドローンの動きとLEDの光で音楽を楽しむことができる。作品全体を通して、ドローンの動きとサックスの音にLEDランプがマッチしている。作品のコンセプトは、サクソフォンから出る音でドローン飛ばす。

ドローンの動きは、センサーで制御されている。ドローンの飛行、楽器、LEDランプを使用したライブエレクトロニクス音楽作品。

姜信愛 Kang Shinae 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)博士後期課程

武蔵野音楽大学において飯島英嗣氏のもとで作曲を学ぶ。Dongguk University (SEOUL, KOREA) GRADUATE SCHOOL OF DIGITAL IMAGE AND CONTENTSにおいてコンピューター音楽をJUN KIM氏に師事。作曲家、メディアアーティスト、映像音楽など幅広く活躍している。現在、東京芸術大学音楽学部博士課程において後藤英氏に師事。

李瓊宇 Li Qiongyu 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)修士課程

中国江蘇省生まれ、現在東京藝術大学音楽音響創造科修士課程で後藤英に師事。音、光、身振りによる総合表現、インタラクティブパフォーマンスに関心を持つ。電子音楽、サウンドデザイン、イルミネーションなど幅広く活動している。

趙森 Sen Zhao 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽音響創造分野研究生

2020年武蔵野音楽大学大学院音楽研究科作曲専攻修士課程を修了。2021年4月より東京藝術大学大学院音楽音響創造科研究生。

キム・ジヌン Kim Jinwoong 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻(先端芸術表現)博士後期課程

東京藝術大学美術研究科先端芸術表現博士課程古川研究室所属。

3. ETO:VOT (映像付き電子音響音楽作品)

ロシア語の「eto」は、日本語では「これ」と訳される。そして、「vot」という単語は、「ここに」という意味がある。音楽が流れることにより形成される時空間や、呼び起こされる感情をテーマにした作品である。まるで空間に置かれた装飾品が、空間全体に作用するように、それぞれの場所でこの曲を聴いたリスナーの心に

浮かんでくる思いやイメージによって、曲の存在感が完成される。音楽と人との間にある相互関係に、改めて焦点を当てることを目的としている。

アム・セチュン・トニー Sechun Tony Uhm 愛知県立芸術大学大学院博士後期課程音楽専攻作曲

1984年韓国ソウル生まれ。14歳から作曲を始める。2010年、米国ローワン大学作曲専攻 卒業。2015年に文部科学省奨学金留学生として来日、2018年3月、名古屋音楽大学大学院修士課程・映像音楽作曲を修了。同奨学生として、2018年4月に愛知県立芸術大学博士後期・作曲専攻に入学、現在に至る。2019年、International Composition Competition (Forme Uniche di continuità nello spazio) "Luigi Nono Award" 入選。2020年、Classic Pure Vienna, International Composition Competition 入選。2019年公益財団法人日東学芸 振興財団研究助成者。

Harada:Lab

2018/04/18グループ結成。映像・音楽・企画担当の3人を基本メンバーとして活動中。主な活動内容はプロジェクションマッピングの制作・公演/映像コンテンツの制作(ブライダル映像など)。2020年11月、東京国際プロジェクションマッピングアワード Vol.5 U25 部門にて最優秀賞を受賞しているほか、サウンドアートコンサート(大同大学)にて3年連続プロジェクションマッピングを公演中。

4. 詩集「poetry motion」 (映像作品)

モーショングラフィックスとキネティックタイポグラフィの技法を用いて試作を行なったメディア作品。本作は書籍では表現できない時間軸に情報を持つ試作として制作を行なった。無音であるものの、映像によって発生・減衰が明確に表現される様子はどこか朗読に近いものがある。文字の動き・グラフィックの中で表現される今作は、朗読よりも感情表現が鑑賞者にとって視覚的に直感的な理解が容易となり、表現者の伝えたい内容をより単一的に伝えることに注力している。

本作品は詩集として、「創作」「物語」「金縛り」「望」「約束」「電脳世界四年前仮説」「名前」の計7作品を収録している。

高橋丞太郎 Jotaro Takahashi 九州大学大学院修士課程

2019年度に九州大学芸術工学部音響設計学科を卒業後、2020年度より九州大学芸術工学府修士課程に進学。"jotaka"としてVJ・映像演出を行う。VJとしてはageHaなどの県外出演なども行いながら、福岡を中心に活動。国内アイドルシーンを中心にライブ中の映像演出を行い、リリックモーションと曲の文脈を踏まえた演出を得意とする。

5. 卒業 (映像付き電子音響音楽作品)

ピアノの演奏に連動するインタラクティブ作品の実践映像。キーボードのMIDI情報をTouchDesigner上で受け取り、リアルタイムに映像として出力する。

田嶋水美 Miharu Tajima 東京工科大学メディア学部メディアコンテンツコース

東京工科大学メディア学部メディアコンテンツコース3年生。小学校で合唱部、中学校で吹奏楽部、高校でジャズバンド部、大学ではインストバンドに所属し、ピアノやサクスを演奏している。授業や自主制作では、作曲から映像まで幅広く手掛けている。好みの音楽ジャンルはジャズや劇伴音楽など。大学に入ってから、視覚と聴覚の相互作用について関心を持ち始め、現在は楽器演奏をリアルタイムに映像化するシステムの構築、研究を行っている。

6. Primula (映像付き電子音響音楽作品)

動画は大正時代の男女のラブストーリーで、あらすじや細かい設定はありますが、大まかなコマ割りになっているので自由に解釈してもらえらと思います。登場人物の感情や行動を表した曲になっているので是非注目して聴いてみてください。

永山夏子 Natsuko Nagayama 同志社女子大学学芸学部音楽学科

同志社女子大学学芸学部音楽学科在学中。

7. FM-MF (電子音響音楽作品)

FMラジオ、FMトランスミッターを用いた即興演奏によるノイズミュージック作品のアーカイブ動画である。FMラジオは本来、視聴者が周波数を合わせて、望む放送を聴くコンテンツとして用いられ、音を聴くものと

される。制作者はその「周波数を合わせる」という行為に注目した。

2つのラジオを設置し、FMトランスミッターを用いて、電波を介した音のループシステムを生成する。その過程で発生したFM電波による独特のノイズを利用し、さらにそこにラジオのダイヤルを回して周波数を合わせる動きを重ね、新しい楽器としての役割を持たせる。

2つのラジオが楽器として、互いに影響しあって生まれる電子音楽作品を創作した。

伊地知昂大 Kodai Ijichi 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域所属。音楽による空間性への意識やパフォーマンスによって生まれる身体性をテーマとした研究をしている。大学入学時にサウンドを用いたパフォーマンスに出会い、それ以降、作曲や即興演奏を学び、作品を制作している。

8. Space_Crash (インスタレーション作品)

展示型インタラクティブ作品を鑑賞者が体験している様子を動画として提出。

大澤拓真 Takuma Osawa 名古屋市立大学芸術工学部

名古屋市立大学学部水野研究室4年生。

9. sound puzzle (インスタレーション作品)

鑑賞者が8つのカラーキューブから最大4色選び、自分好みの音楽を作るインタラクティブ作品です。カラーキューブの色ごとに異なる音色が割り振られており、Maxで色感知をすることによって、指定したスピーカーから音が流れます。

キューブをはめ込む枠と四方に置かれたスピーカーの位置が連動しています。

音色はどの音が重なっても音楽になるように制作し、ループ音源にすることで、鑑賞者が何度もブロックを組み替え楽しむことができます。

「SOUND PUZZLE」は“パズルで遊ぶように誰でも簡単に楽しめる音楽”を目指して考案しました。

山田璃子 Riko Yamada 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域、インスタレーション領域
色×空間をテーマにサウンドや映像を用いて、インスタレーション作品を制作・研究している。

山本実生 Moi Yamamoto 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域、パフォーマンス領域
身体×音楽×映像をテーマにダンスパフォーマンス作品や舞台作品、映像作品を制作・研究している。

10. nest city (映像付き電子音響音楽作品)

歴史学者フェルナン・ブローデルが提唱した歴史学方法論「三層構造」を基礎にした作品。3つの異なる周期を数理的概念に倣い系に還元することで、システム独自の秩序を創る(自己組織化)。nest cityの"秩序"は、我々には"リズム(音あるいはノイズ)"として知覚できるが、操作することはできない。つまり、nest cityは自己相似的なモジュールである一方で、新たな個体である。干渉は互いに可能であり、その干渉の延長で歴史に帰化することをnest cityは目的としている。

堤本禮太 Reita Tsutsumimoto 京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科 音楽コース
京都精華大学2022年度卒業予定。作曲、デザイン、一方で楽器設計の活動を行っている。2018年に京都Annie's CAFEでノイズグループ"TTT"としてライブ演奏。2019年にオランダでインターンシップを行い、2021年にICSAFで作品"Periophone"を発表。同年12月に広島で開催された"CAMERA OBSCURA 15th."で作品"Another Griot"を展示。

11. co(VID)rona (即興演奏)

1962年作曲された武満徹・杉浦康平協作の「コロナ」を、コロナウィルス・パンデミックの時代にどう読み直せるか、そして、五線譜に比べて作品の処理プロセスの過程を想像しにくい図形楽譜を、それを見る側・聴く側、つまり観客のために、あるいは観客とともにどのように読めるのか。上記の事項を踏まえ、社会的・音

楽解釈的文脈から2022年の時点に60年前の作品の「コロナ」を現代メディアとともに再解釈する。

林賢黙 Hyun-Mook Lim 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)メディア表現研究科

12. Ring Closure for Baritone Saxophone, LaserCube and electronics

(ライブエレクトロニクス作品)

映画「12モンキーズ」では、時間閉環という現象を描いている。既に決まった構造を繰り返す中、どれほど変えようとしても異なる方向で同じ結果に辿り着くだけだとされる。この作品では、聴覚と視覚の構造がそれぞれ閉環になっており、まるで類似する段落が繰り返していく中で演奏家はただ冷淡としながら進行を覗いているような様子。テクスチャー、音色、光の存在は、この冷淡な覗きを支えるとともに、最後の閉環となる。

顧昊倫 Haolun Gu 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)博士後期課程

中国・蘇州市生まれ。2017年上海音楽学院音楽設計と制作科を首席で修了し、2020年東京藝術大学大学院音楽音響創造科修士課程を修了。現在、同大学院博士課程に在籍。作品は、上海電子音楽週間、ニューヨーク電子音響音楽祭、国際コンピュータ音楽会議などに取り上げられているほか、アンサンブル・アッカ20周年記念コンサート公募入選、世界各地で演奏されている。第7回両国アートフェスティバル招待作曲家。これまでに作曲を秦毅、尹明五、陳強斌、西岡龍彦、後藤英の各氏に師事。

鄭瑀 Yu Zheng 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)修士課程

東京藝術大学大学院、音楽音響創造科修士課程在籍。メディアアートを中心に創作活動をしている。現在、オーディオビジュアル・コンポジションに基づくライブ・パフォーマンスの創作に関する研究を行っている。

趙森 Sen Zhao 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽音響創造分野研究生

中国生まれ、2020年武蔵野音楽大学大学院音楽研究科作曲専攻修士課程を修了。2021年4月より東京芸術大学大学院音楽音響創造科研究生在籍。

13. 未来への哀歌 (映像付きライブエレクトロニクス作品)

過去・現在・未来、人間の手によって起こる悲劇への疑問を、アニメーション、音響プログラミング、楽器演奏で表現する。12平均律にA~Zのアルファベットを割り当て、戦争経験者の言葉を音階に当てはめ楽譜として記譜し、音響プログラムでトーンクラスターを生成する。フルートの演奏はa(ラ)の音のみを演奏する。人間は、地球の未来を変えてしまう大きな力を持っている。この作品は、私自身を含めた全ての人間への警告である。

伊藤利恵 Rie Itoh 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域所属。社会的メッセージを持つサウンドパフォーマンスについての研究と作品制作を行っている。

3月5日 [土] 10:00 -●3月5日(土)10:00～3月31日(木)まで
オンデマンド作品3月5日[土] 10:00～3月31日[木] まで
オンデマンド作品

YouTube公式ページ上にて視聴可

<https://www.youtube.com/channel/UCgIIznLaBFz7Yb2FERqELkQ>

<愛知県立芸術大学>

1. 1/2の聴常現象 - クオリアの聴跡 - (ミクスト音楽作品)

杉野智彦 Tomohiko Sugino 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻作曲コース

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

2. The Ruins (電子音響音楽作品)

この作品は愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士前期課程陶磁領域の竹田なるみさんの作品「wasteland」からインスピレーションを得て作品を制作した。竹田さんはこの作品を作る際、私の作曲作品《ライオンに化けたロバ-for toy piano》からインスピレーションを得た。竹田さんは制作時、乾燥した大地にある遺跡のイメージが浮かんできたと言い、そこから着想を得て作曲した。この曲は、現在の遺跡からまだ街として機能して栄えていた時代に戻り、そして文明が崩壊し、また現在の遺跡に戻るというタイムトラベルのような視点で制作した。今回はまずは方眼紙にスケッチして作曲したが、作品に描かれている模様を描いてみるなど、視覚からのイメージがとても強い作品になった。

古木彩音 Ayane Furuki 愛知県立芸術大学大学院博士前期課程音楽専攻作曲

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻を卒業、桑原賞受賞。在学中、オーディションにて選出され、同大学第52回作曲作品演奏会、第53回定期演奏会、第52回卒業演奏会にて作品が初演される。第26回国際芸術連盟作曲コンクール第5位入賞。作曲を後藤丹、成木理香、アンドリアン・ベルトー各氏に師事。現在、同大学大学院音楽研究科博士前期課程作曲領域1年生。

3. ETO:VOT (映像付き電子音響音楽作品)

アム・セチュン・トニー Sechun Tony Uhm 愛知県立芸術大学大学院博士後期課程音楽専攻作曲

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<大分県立芸術文化短期大学>

1. expedition (電子音響音楽作品)

このexpeditionを作るにあたって電子音響音楽という私自身も未知の世界に1歩踏み出し、少しずつ自分の世界を表現できていると思います。「曲を作る」ということは私には絶対に出来ない。そういうマイナスな考えを取り払うことが出来ました。曲の明暗が結構変わるので、その変化を楽しみながら皆さんの頭の中で自分の物語が映像化されるとより楽しめると思います。

桃原花鈴 Karin Tobaru 大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース管弦打分野

沖縄県立開邦高等学校芸術科音楽コースクラリネット専攻を卒業。12歳よりクラリネットを始める。第45回九州アンサンブルコンテスト銀賞。現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース演奏分野クラリネット専攻1年生。

2. #001 (電子音響音楽作品)

僕が普段聴く音楽を、自分自身で作りたいと思い制作しました。8ビートのドラムにリズムカルなバスライン、細やかな動きをする音、静と動のあるコード、そしてビー玉の音、それらを用いて、聴いていて身体を揺らしたくなるようなノリの良い音楽を目指して制作しました。是非お聴き下さい。

比嘉大毅 Daiki Higa 大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース指揮分野

沖縄県立開邦高等学校芸術科音楽コースを卒業。12歳よりテューバを始める。現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コースに在籍。指揮を森口真司氏に師事。

3. Albtraum (電子音響音楽作品)

「Albtraum」とは「悪夢」という意味のドイツ語です。みなさんも1度は悪夢を見た事があると思います。「何か」に追いかけられる夢、体から無数のカエルが湧き出る夢、すごいリバーブのかかった赤ちゃんの泣く声が響く夢…etc その様々な悪夢を打楽器の音や声を具材に、ロックとミニマルミュージックを合わせ、エフェクトで味付けをしてひとつの作品に仕上げました。

加来隆志 Ryuji Kaku 大分県立芸術文化短期大学音楽科管弦打コース

大分県立芸術緑丘高等学校音楽科打楽器専攻を卒業後、大分県立芸術文化短期大学音楽科管弦打コース打楽器専攻に入学。これまでに打楽器を曾根千夏、木野聖子、ピアノを星野美由紀、河野聡美、曽我沙織、電子音響音楽を松宮圭太の各氏に師事。

4. 海に眠る (電子音響音楽作品)

人間の中には皆それぞれ、様々な記憶や想いが眠っている。他人が触れることを許さないものや、自分の理解しか通らないものもあるかもしれない。目まぐるしい日常を過ごす裏側で、私の中で静かに流れている音と色をイメージして作りました。

長谷場一花 Ichika Haseba 大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース作曲分野

1歳からヤマハ音楽教室に通い、小学1年生から高校3年生までピアノを習いながらソルフェージュ、音楽理論、作曲を学ぶ。現在、大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース作曲分野に在籍、松宮圭太氏に師事。

5. DJ.G☆O☆U☆D☆A (電子音響音楽作品)

録音の授業の際に録音した先輩の音が素敵すぎてどうしてもこの音源を使いたいと思い、この曲を作りました。普段から激しい洋楽などを好んで聞いているのでそこを参考に自分の「好き」を集めた曲を作りました。曲を分厚く重たいものにしたと思い、色々な音を重ねました。低音の迫力と先輩の声に注目してお聴き下さい。

松井志樹 Motoki Matsui 大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース管弦打分野

大分県立芸術文化短期大学音楽総合コース管弦打分野卒業。4月よりくらしき作陽大学音楽科教育文化コース音楽デザイン専修にて新名俊樹氏に師事。

6. 久遠 (電子音響音楽作品)

久遠は時に、時間が無限であることの意味として用いられます。私はこの曲に終わりは終わりであって終わりでない、どんな事があろうと大きな流れの中であるという想いを込めました。今回、佐々木優実先輩に歌声を頂きました。2年間という短い時間でしたが多くの思い出を頂きました。一緒に学べる時間ももうすぐ終わってしまいますが、全てが無くなってしまふことはありません。この曲が皆様のそれぞれの想いに寄り添えたら嬉しいです。

森うらら Urara Mori 大分県立芸術文化短期大学音楽科ピアノコース

大分県立芸術文化短期大学音楽科ピアノコース在籍。同短期大学の作曲作品展に出演。現在、ピアノを喜多宏丞氏に師事。

7. Continuo (電子音響音楽作品)

岡田実夕 Miyu Okada 大分県立芸術文化短期大学専攻科音楽専攻作曲コース

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

8. 町中華で踊ろうよ (電子音響音楽作品)

佐々木優実 Yumi Sasak 大分県立芸術文化短期大学専攻科音楽専攻声楽コース

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

<大阪芸術大学>

1. 通りゃんせ(未知の世界) (電子音響音楽作品)

陽は落ちていた。私は家路を急いでいたが、どうやら道に迷ったらしい。山道はすっかり落葉が一杯で、歩くのも少し困難な状況だ。蛙の鳴き声が聞こえてきた。この辺りに池はあっただろうか。しかも時期外れじゃないか。そう思いつつ歩を進めるが、一向に見慣れたところに辿り着かない。どうしたものか、全く道が分からない。不安な気持ちが襲ってくる。やがて遠くから音楽らしいものが聞こえてきた。懐かしい旋律であった。

中島弘至 Koji Nakajima 大阪芸術大学大学院 芸術学研究科前期課程1年

若い頃、音楽大学を卒業した。その後、音楽とは無縁の長いサラリーマン生活を送った。いま仕事の重荷から解放され、新たな目標に思いを巡らせたとき、音楽への情熱が蘇ったのである。ミュージック・コンクレートとは「具体音楽」と訳され、あらゆる音が作曲の素材となりうる。大阪芸大の恩師との出会いから、ミュージック・コンクレートの存在を知った。幸運にも大学院という研究機会を得た。思う存分、作品を生み出したいと思う。

2. エコーチェンバー (電子音響音楽作品)

丸い瓶のふたを開けるときの「ポンッ」という音素材を使用して編集・制作をおこなった。広い空間の中で、物音が増幅するイメージを作品に反映している。

福永剛 Takeshi Fukunaga 大阪芸術大学芸術学部音楽学科2年

3. 時間 (電子音響音楽作品)

使用した音素材:アサヒハイボールを氷の入ったコップに入れる音
音で文化の移り変わりを表現した。

野上武留 Takeru Nogami 大阪芸術大学芸術学部音楽学科2年

4. 14時45分 (電子音響音楽作品)

使用した音素材:JR天王寺駅のアナウンスの
音の密度の高低や輪唱を意識して制作した。

村上萌 Moe Murakami 大阪芸術大学芸術学部音楽学科2年

<九州大学・九州大学大学院>

1. CDJ Music Concrete (電子音響音楽作品)

イ・スンギョ Yi Seunggyu 九州大学大学院修士課程

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

2. 詩集「poetry motion」(映像作品)

高橋丞太郎 Jotaro Takahashi 九州大学大学院修士課程

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<京都精華大学>

1. nest city (映像付き電子音響音楽作品)

堤本禮太 Reita Tsutsumimoto 京都精華大学 ポピュラーカルチャー学部 ポピュラーカルチャー学科音楽コース

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<尚美学園大学>

1. Game Player (電子音響音楽作品)

テーマは1950年代から現代にかけてのゲームです。

レトロなゲームの感じやモダンなゲームの感じを混ぜ込んで作りました。最初は、音響作品としてゲームの起動音やスタート画面などの雰囲気を作り、そこから音楽へとつなぎました。そのため音響と音楽を混合した作品になっています。

ジャンルとしては、電子ダンスミュージックの一つFuture Bassとしてデザインしてみました。今回はE♭マイナーですが、タイトルとテーマに沿った音楽だと思います。

岸輝 Akira Kishi 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

現在、尚美学園大学芸術情報学部、音楽応用学科に在学中である。

主に電子ダンスミュージックを作るのが得意で、特にテンポは140から160までのテンポを作ることが多く、好みのキーはEメジャー(ホ長調)やBマイナー(ニ短調)である。本職となるジャンルはFuture Bass。また、2018年からYouTube、SoundCloudで音楽配信を開始している。また、電子ダンスミュージックだけではなく、音響作品やアコースティック音楽も試みている。

2. Quasi Adagio (電子音響音楽作品)

バルトークの曲に用いられた民族音楽と和声の技法に興味を持ち、また、坂本龍一の『async』というアルバムに収録されている曲の一つ「andata」から感銘を受け、それがこの作品の発想の元となりました。原曲はバルトークの「子供のために 第1巻 No.3 Quasi Adagio」をアレンジしたもので、短い曲でありながら、ハンガリー民族音楽の旋法や和音の深みを感じる曲でもあります。「限定されたMIDIフレーズ」という制限の元で、如何に環境音や、サンプリングされた音素材との組み合わせでイメージを膨らませ、リスナーを幻想的な体験に引き込ませることを目標に制作した作品です。

ソー・ジンケン Soh Jing Ken 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科4年。1998年マレーシア生まれ。12歳からピアノを学び、セカンダリースクールの時とある映画から感銘を受け、作曲の勉強を始めた。その後、劇伴音楽をはじめ、多分野の音楽に興味を持ち、日々研究している。

3. 町……混沌?…… (映像付き電子音響音楽作品)

この作品は、音響作品であり、一定のテンポ感はほとんどありませんが、町の特に駅前にいくと聞こえる、あまり混じり気のない様々な音をイメージしつつ、「一見雑然と音がなっているように聞こえるが、同時に纏まっても聞こえる」といったような「混沌」とした感じを表現しました。内蔵音源や著作権フリーの効果音素

材に加え、私が録音した音声(出かける用事があった際に、雨が降る中、道を歩いていた時の音や、私が、実際に自分のチャンネルで投稿した動画で使用したもので、私の声をスマートフォンで録音したものを加工した上で用いています。

杉山慶 Kei Sugiyama 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

尚美学園大学芸術情報学部、音楽応用学科・音楽メディアコースに在籍し、DAWなどを使用した作品制作(楽曲、音響作品等の制作。)等について学んでいる。専攻実技(楽曲制作等)として、佐藤賢太郎氏、外山和彦氏に師事。一昨年より、YouTubeチャンネル「SxS MUSICチャンネル1st」を開設し、不定期で自作曲を動画として投稿している他、高校時代の友人が運営するチャンネルへの楽曲提供も行った。尚、楽曲のジャンルは関係なく様々なもの人チャレンジしており、いわゆる「歌もの」と呼ばれているジャンルの楽曲制作は行っていないものの、それについてもチャレンジすべく準備中。

4. Fragmented (電子音響音楽作品)

アークスモニウム向けにステレオ2chで制作したものに新たな要素を加え、3Dパンナーで再配置したBinaural作品。SSTV(低速度走査テレビジョン)のような信号音などの今までに組み込んだことのない要素の試行、導入を主な目的として制作した。また、全体を通して「過去の嫌な記憶や恥ずかしい記憶を突然思い出した時」の不快で不思議な感覚を落とし込んだ。

使用した音素材:OtoLogic(<https://otologic.jp>)

使用したPlugin:SoundObject(suzumushi)(https://suzumushi0.hatenablog.com/entry/SOv1/SO_JP)

中石勇弥 Yuya Nakaishi 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

2001年熊本県生まれ。尚美学園大学音楽応用学科音楽メディアコース3年。2歳よりエレクトーンを始める。携帯ゲーム機で体験した情景と音がマッチした演出に感銘を受けたことがきっかけで制作に興味を持ち、大学からDTMを始める。今作品の制作はICSAF2019でアークスモニウムや電子音楽などを知ったことがきっかけであった。大学で学んだAmbisonicsなどの立体的な制作方法を活かし、現在ではクラブミュージックや電子音楽を主に制作している。

5. HEAVY RAIN (電子音響音楽作品)

大雨や豪雨を意味するHEAVY RAINという単語を派生させ、「大雨が降っている空間(Room あるいはSpace)」をテーマにした作品。

バイノーラルでエンコードされている音は少ないが、なるべく目を閉じて(所謂ASMRのように)細かい音一つ一つに没入し「空間」を想像しながら視聴して欲しい為、イヤホンまたはヘッドホンを用いての視聴を推奨する。

花澤昂 Subaru Hanazawa 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

尚美学園大学音楽応用学科3年。

12歳の頃訪れたゲームセンターで音楽ゲームと出会い、シンセサイザーの機械的な音色に感銘を受ける。クラブミュージックや音楽ゲームの特徴である「ビートを重視した」曲が好みだったが、大学生活を送る中で学んだ理論や具体音楽等の様々な音響作品を上手く音楽ゲームやクラブミュージックの要素に落とし込めないかを模索している。

6. 終末の世界 (電子音響音楽作品)

ピアノの音色をテーマに、機械しかない未来の世界を描いています。この曲を構成する音素材の70%はピアノそのものから生まれます。演奏の音だけでなく、ピアノの弦を叩く音、厚みの違う布をピアノに貼って演奏する音、ペダルの音など、様々な音が楽しめます。そしてこの曲を作るにあたって、ライブで上演することも考慮しました。この曲はMAXのいくつかの機能によって生で演奏することができ、また、zirkoniumのようなソフトウェアを使用して、更に空間音響としての効果を出すこともできます。

オオ・カカ Wang Jiahe 尚美学園大学大学院芸術情報研究科音楽表現専攻

尚美学園大学大学院音楽表現専攻音楽創作分野1年在籍中。高校時代から作曲の勉強を始めて、これまで8年くらいしてきました。3年ほど前に中国から日本に来て勉強を続けていて、現在大学院で音楽制作の勉強をしています。修了後は、機会があれば日本のゲーム業界に入り、音楽の仕事が続けようと思っています。

7. 眠い (電子音響音楽作品)

この作品は民族楽器、電子音、生活音などの音によって作られた曲です。

「眠い」というタイトルは、朝早く起きた時の眠気の覚めない状況で作ったことが元になっています。使用されている楽器は馬頭琴というモンゴルの民族楽器です。馬頭琴の音を録音して、DAWで編集し、その魅了的な音を引き出しました。また、ホーミーの音も使用しています。こちらも馬頭琴と共にモンゴルの代表的な音楽です。こちらは「基音」と「高次倍音」の二つの音が出されます。録音、編集などは全部自分で行いましたが、まだ足りない部分があると思います。

ア・ヨンガ A Yongga 尚美学園大学大学院芸術情報研究科音楽表現専攻

尚美学園大学大学院音楽表現専攻音楽創作分野1年在籍中。

幼少の頃から音楽が好きで、10歳から馬頭琴を学び、電子音楽を学ぶため、2016年に来日。民族音楽と電子音楽の結合の勉強、研究などを行っています。在日中にいろんな音楽活動を行いました。

8. 死にたいの国 (映像付き音響音楽作品)

この楽曲を制作したきっかけはかつての友人の言葉である。彼女は私と会うと必ず「〇歳で死ぬ」と言っていた。私はその度に説得していたが、心のどこかで待ち侘びている私もいた。しかしその歳を超えた今でも彼女は遅く生きている。この楽曲は歌詞にたっぴりと皮肉が込められている。(詞 だけに。)いかに盛大に「人間らしさ」を歌えるかということテーマに掲げ、非常に捻くれた私の人間らしさが詰まっている楽曲である。

一見死を望む人へのアンチソングのようにも聴こえるが生きる為に楽をすること、つまりもっと視野を広げると見え方が違うということを伝えているつもりである。

因みに私は別に死にたくない。

古山菜の花 Nanoha Koyama 尚美学園大学芸術情報学部音楽応用学科音楽メディアコース

小学4年生で「たま」に出会い音楽を始める。その後 ゆらゆら帝国、かまやつひろし、すかんちに影響を受ける。高校生になり先輩のバンドのライブを観たことでかなり衝撃を受ける。以降バンド活動を始めた後、音楽作品制作に没頭する。現在はアラナちゃんとしての活動のほか、作曲集団「Aho-Electronics」、バンド「トロピコの街」のサポートギター、として活動中。Twitter @kkkk_k1109

<情報科学芸術大学院大学(IAMAS)>

1. co(VID)rona (即興演奏)

林賢黙 Hyun-Mook Lim 情報科学芸術大学院大学(IAMAS) メディア表現研究科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<昭和音楽大学>

1. 喧騒の中で咲く静寂の花 (電子音響音楽作品)

私たちはこの世に生活して、毎日忙しいと休みの隙間を過ごしている。周りの自然と都市はだんだん切り離せなくなった。本作品は身近な生活音から録音され、制作されたものである。音の素材は雨、落ち葉、池の水の音、ガラスの音、人々の言葉、電車、鍵や雪の足音等。自然と都市、夢と現実、喧騒と静寂、様々な情景を織り合わせたイメージを表現し、この作品の創作の中にバランスをさがしている。

誰でも生命の個体。もし友達がいなかったら、私たちは孤独の中で消える。私たちは混雑を恐れて、空間が狭すぎると、混雑の中で消えてしまい。私たちは前に進み、得て、失っていく。喧騒の世の中に自分の「心の花」を静かに咲かせるため、誰でも心の安らぎを探している。

高敏 Gao Min 昭和音楽大学大学院修士課程音楽研科音楽芸術表現専攻(作曲)

中国出身。昭和音楽大学大学院音楽研究科修士課程音楽芸術表現専攻作曲コース。作曲を渡辺愛に師事。電子音響音楽を由雄正恒に師事。

2. サウンドデザイン・オムニバス (電子音響音楽作品)

昭和音楽大学音楽芸術表現学科 作曲・音楽デザインコース、

昭和音楽大学短期大学部音楽科 デジタルミュージックコース

伊藤晴菜 Haruna Ito, 甲斐涼南 Suzuna Kai, 上杉将史 Masafumi Uesugi, 王地 Wang Di, 駒村深智 Sachi Komamura, 孫旭廷 Sun YanTing, 福澤舞 Fukuzawa Mai
作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

<帝塚山学院大学>

1. Mystic Stroll (電子音響音楽作品)

この作品はアブストラクトで不思議な様子を表現しているものです。個人の頭の中の想いと周りの出来事が混ざり、空想と現実がどれかわからないという内容です。謎の散歩のようなもので、「Mystic Stroll」と名付けました。この作品はターンテーブルをビートのもとにし、5人の声の録音をコラージュしています

AMATSUSAHA(ペーター・マイツェン Peter Majcen、阿久津遼磨 Ryoma Akutsu、櫻井翔 Sho Sakurai、椿野駿 Kakeru Tsubakino、林公望 Kiminobu Hyashi) 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科
帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属の5人組。普段レゲエやヒップホップ、J-POPやEDM等の様々なジャンルの音楽を聴いていますが、今回はグループでヒップホップをはじめ、それらのジャンルのいろんな要素をアレンジして、不思議な今までの無いようなものを作ってみました。

2. 殺人遊戯 (電子音響音楽作品)

ある仮定の事件を日常に溢れる音と打ち込みの音楽、録音した声でニュース番組のように仕上げました。イメージを膨らませながら聞いて頂けると幸いです。鳥肌を誘うような音楽を作りましたので、ぜひ、息を呑むほどの恐怖体験を。

上谷真由佳 Mayuka Uetani 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属。中学高校6年間コーラス部所属していました。ライブ鑑賞が好きで、特にJ-POPの音楽をメインに聞いています。PCで音楽を制作したり曲をオリジナルに編集したりして、今後は実際に楽器を使った音楽を作りたいと思っています。

奥村優人 Yuto Okumura 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属。今までの本格的に音楽や楽器をしませんでしたので、音楽を作る際、まだ足りない部分が多々あります。ただ音楽の要素の中で重要なメロディはいつも少しだけ浮かびます。また作詞作曲をされている杉山勝彦さんをリスペクトしています。

門稚葉 Wakaba Mon 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属。特技といえるほどの技術は正直まだ何ひとつ持っていませんが、私はただ純粋に音楽が好きです。人生において音楽は必要不可欠だと思っています。誰かの心を動かせるような音楽をつくれるようになるために今後もさらに学んでいきたいと思っています。また、アニメやドラマをよく観るので、そのサウンドトラックを作曲されている音楽家の林ゆうきさんを尊敬しています。

3. トロイメライ・ワンダーランド (電子音響音楽作品)

テーマは「夢」です。前半はポップに後半は重低音をきかせた音作りを研究しました。恐怖を音楽によってどう感じさせるかにこだわりました。

塚本未緒 Tsukamoto Mio 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属。現在、軽音部でドラムを担当。

前田菜月 Natsuki Maeda 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科3回生音楽・サウンドゼミ所属。高校時代は軽音部でベースを担当、好きな楽曲のジャンルはJ-POP。

4. 一喜一憂、大学生 (電子音響音楽作品)

南凌介 Ryosuke Minami 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

宮脇雅也 Masaya Miyawaki 帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

<東京藝術大学>

1. Shadow for saxophone and DRONE (ライブエレクトロニクス作品)

姜信愛 Kang Shinae 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)博士後期課程

李瓊宇 Li Qiongyu 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)修士課程

趙森 Sen Zhao 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽音響創造分野研究生

キム・ジヌン Kim Jinwoong 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻(先端芸術表現)博士後期課程

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

2. Ring Closure for Baritone Saxophone, LaserCube and electronics

(ライブエレクトロニクス作品)

顧昊倫 Haolun Gu 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)博士後期課程

鄭瑀 Yu Zheng 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽文化学(音楽音響創造)修士課程

趙森 Sen Zhao 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽音響創造分野研究生

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<東京工科大学>

1. 層楽 (電子音響音楽)

山之下朝陽 Asahi Yamanoshita 東京工科大学大学院バイオ・情報メディア研究科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

2. NON-CONTACT (即興演奏)

川合雄佑 Yusuke Kawai 東京工科大学メディア学部メディア学科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

3. 卒業 (映像付き電子音響音楽作品)

田嶋水美 Miharu Tajima 東京工科大学メディア学部メディアコンテンツコース

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<東京電機大学>

1. Control (映像付き音響作品)

公文太一 Taichi Kumon 東京電機大学未来科学部情報メディア学科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

2. 変遷 (電子音響音楽作品)

ビジュアルプログラミング言語を用いた機構の中で、アルゴリズムにのっとり音を出力して奏でる電子音響音楽作品。新型コロナウイルスの感染者に関するデータを可聴化するソニフィケーションを実装した不規則な音高とリズムのメロディに環境音などを加工した楽音を組み合わせ、2021年のコロナ禍と呼ばれる社会情勢の不穏な雰囲気音楽を表現した。

小林一憲 Kazunori Kobayashi 東京電機大学未来科学部情報メディア学科

1999年、埼玉県に生まれる。高等学校を卒業後、2018年に東京電機大学未来科学部情報メディア学科に入学。学部4回生の現在、音メディア表現研究室に所属しており、作曲の基礎やアルゴリズムを用いた音楽表現を学び電子音楽の制作に取り組む。

3. Creepration (電子音響音楽作品)

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系 作曲・音楽文化研究室メンバー

吉田絵梨奈 Erina Yoshida(mix), 上野知也 Tomoya Ueno, 遠藤慎之輔 Shinnosuke Endo, 栗原歩武 Ayumu Kurihara, 関口野亜 Noa Sekiguchi, 原悠真 Yuma Hara, 真中大徳 Daitoku Manaka, 五十嵐万裕 Mayu Ikarashi, 賀川友理 Yuri Kagawa, 川崎萌奈美 Monami Kawasaki, 椎橋圭悟 Keigo Shiibashi, 中村光希 Mitsuki Nakamura, 鈴木隆潤 Takahiro Suzuki, 橋本亮吾 Ryogo Hashimoto, 新井聡真 Soma Arai, 本多慎吾 Shingo Honda, 土井理史 Satoshi Doi

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

4. 砂像 (電子音響音楽作品)

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系, 作曲・音楽文化研究室メンバー

菅原聖秀 Seishu Sugawara (mix), 蛭原崇弘 Takahiro Ebihara, 小室佳太郎 Keitaro Komuro, 長谷川隼大 Toshihiro Hasegawa, 安田翔 Sho Yasuda, 長谷川権 Chikara Hasegawa, 柿崎瑞貴 Mizuki Kakizaki, 鈴木怜奈 Reina Suzuki, 川崎拓海 Takumi Kawasaki, 塩田千紘 Chihiro Enda, 笹嶋ひより Hiyori Sasajima, 鈴木敦也 Atsuya Suzuki, 小林玄斉 Gensai Kobayashi, 間下拓海 Takumi Mashita, 高根沢直柔 Naonari Takanezawa, 松本実樹 Miki Matsumoto, 吉田優理奈 Yurina Yoshida

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート1を参照のこと

<同志社女子大学>

1. late at night (電子音響音楽作品)

冬の、長く深い夜をイメージして作りました。

笠谷彩夏 Ayaka Kasatani 同志社女子大学学芸学部音楽学科

2. 4th dimension (電子音響音楽作品)

宇宙をテーマに制作するEPのうちの1曲。3次元に生きる私たちには理解できない4次元の世界をテクノサウンドで表現しました。ジャンルはHypnotic Techno。规律的なビートと不規則なサウンドで、4次元を想像してみてください。縦、横、高さ以外の新しい軸について思いを馳せてもらえると嬉しいです。

溝口夏希 Natsuki Mizoguchi 同志社女子大学学芸学部音楽学科

3. コロン狂想曲 (電子音響音楽作品)

家で飼っているミニチュアダックスフンドのコロンが夜中部屋で暴れて悪戯し、疲れてまた眠りにつくまでの様子を表現しました。

伊藤穂乃香 Honoka Ito 同志社女子大学学芸学部音楽学科

4. Primula (映像付き電子音響音楽作品)

永山夏子 Natsuko Nagayama 同志社女子大学学芸学部音楽学科

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<名古屋学芸大学>

1. 未来への哀歌 (映像付きライブエレクトロニクス作品)

伊藤利恵 Rie Itoh 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

2. FM-MF (電子音響音楽作品)

伊地知昂大 Kodai Ijichi 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

3. sound puzzle (インスタレーション作品)

山田璃子 Riko Yamada 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域、インスタレーション領域

山本実生 Moi Yamamoto 名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科サウンド領域、パフォーマンス領域

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

<名古屋市立大学>

1. Space_Crash (インスタレーション作品)

展示型インタラクション作品を鑑賞者が体験している様子を動画として提出。

大澤拓真 Takuma Osawa 名古屋市立大学芸術工学部

作品解説・プロフィールはICSAF2021コンサート2を参照のこと

ICSAFについて

ICSAF(インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル)は、テクノロジーと音楽に関する研究や創作を教育課程に取り入れている大学や研究機関が参加し、学生たちの交流の場として、また日々の成果を発表する場として開催するイベントです。

主催:JSSAインターカレッジ運営委員会 / JSSA先端芸術音楽創作学会

協力:西口頭一(大分県立芸術文化短期大学美術科 准教授) / 濱野峻行(株式会社 cotton) / 森山拓(オペラピオーネ大分) / 大分県立芸術文化短期大学総務企画部, 教務学生部, 美術科, 音楽科

助成:公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

開催担当校:大分県立芸術文化短期大学、九州大学・九州大学大学院

インターカレッジ登録校(五十音順):愛知県立芸術大学 / 大分県立芸術文化短期大学 / 大阪芸術大学 / 九州大学・九州大学大学院 / 京都精華大学 / 尚美学園大学 / 情報科学芸術大学院大学(IAMAS) / 昭和音楽大学 / 帝塚山学院大学 / 東京芸術大学 / 東京工科大学 / 東京電機大学 / 東京都立大学 / 同志社女子大学 / 名古屋学芸大学 / 名古屋市立大学

実行委員:

松宮圭太(実行委員長 大分県立芸術文化短期大学 専任講師)

城一裕(九州大学・九州大学大学院 准教授)

清水慶彦(大分県立芸術文化短期大学 非常勤講師)

渡邊裕美(JSSA会員)

ICSAF2021 学生スタッフ:

音楽科『音楽情報機器演習B』履修生、『音楽情報機器研究B』履修生有志

音楽科・専攻科音楽専攻学生有志

宣伝美術:西口頭一

料金:視聴無料

会場:オンライン開催

大分県立芸術文化短期大学音楽ホール特設会場より中継 <<https://www.oita-pjc.ac.jp>>

〒870-0833 大分県大分市上野丘東1-11

お問い合わせ:

JSSA先端芸術音楽創作学会事務局 E-mail <office@jssa.info>

先端芸術音楽創作学会 <https://jssa.info>

インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル <<https://ic.jssa.info>>